

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について

小豆島町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象（悉皆調査）

小学校調査 小学校第6学年
中学校調査 中学校第3学年

(3) 調査事項

教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

国語、算数・数学はそれぞれ、「主として知識に関する問題」(A)と「主として活用に関する問題」(B)を出題。理科については、「主として知識に関する問題」と「主として活用に関する問題」を一体的に出題。
主として知識に関する問題（A問題） 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可決であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
主として活用に関する問題（B問題） 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査実施日 平成30年4月17日（火）

(5) 調査を実施した児童生徒数

小学校調査 4校 78人
中学校調査 1校 77人

(6) 調査結果の解釈等に関する留意事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の一般的な学習状況の改善につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

調査結果の公表については、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

2 小豆島町の児童生徒の調査結果の概況

全国（公立）の平均正答率より1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
全国（公立）の平均正答率より1ポイント未満の場合・・・「やや上回った」「やや下回った」

(1) 教科に関する調査の全体的な状況

小学校

国語 A・B、算数 A・B、理科・・・全て全国（公立）の平均正答率を上回った。

中学校

国語 A、数学 A、理科・・・全国（公立）の平均正答率を上回った。

数学 B・・・全国（公立）の平均正答率をやや上回った。

○ 国語 B・・・全国（公立）の平均正答率をやや下回った。

(2) 教科における領域ごとの状況と今後の指導で大切にしたいこと

小学校

ア 国語 A

学習指導要領の領域の状況

「話すこと・聞くこと」全国（公立）を上回った。

【設問 1】相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題など

「書くこと」全国（公立）をやや下回った。

【設問 2】自分の想像したことを物語に表現するために文章全体の構成の効果を考える問題など

「読むこと」全国（公立）を上回った。

【設問 4】登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題など

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」全国（公立）を上回った。

【設問 8 ア】学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題など

今後の指導で大切にしたいこと

「話すこと・聞くこと」

・相手や目的、場面、状況に応じて説明の仕方を工夫できるようにするために、言葉を置き換えること、内容や順序を考えると、相手の理解の状況を確認することなどの説明の仕方が理解できるよう学習活動を工夫する。

・授業以外でもクラブ活動について下級生に説明する場を設定するなど、活用の機会を設ける。

「書くこと」

・「現在と過去を行き来して書く構成」、「出来事に変化を加えながら繰り返して書く構成」などの具体的な構成例を学び、読者に期待をもって読み進めてもらえるよう構成を工夫して書く活動を設定する。

・「読むこと」との関連を図ることが有効なので、読書活動を推進していく。

・自分が書いた文を読み返す習慣をつける。

「読むこと」

・本や新聞、インターネットなど様々なメディアから情報を得る際に、「何のために調べるのか」「何について調べるのか」など、調べる目的や内容を明確にして読む経験を増やしていく。

・目次や索引、見出しに着目して読む、キーワードを見付けながら読む、図表と結び付けて読むなど、図鑑や事典から必要な情報を得るための方法が児童に身に付くよう、様々な場面で調べ学習を積み重ねる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

・主語と述語を適切に照応させて文を読んだり、書いたりする学習活動を設定し、主述の関係を意識できるようにするとともに、適切に主述を照応させることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くことができるようにする。

・相手や場面に応じて適切に敬語が使えるよう、地域の人や保護者と関わる学校行事などにおいて話をしたり、案内の手紙を書いたりする場などを意図的に設定する。

イ 国語 B

学習指導要領の領域の状況

- 「話すこと・聞くこと」全国（公立）を上回った。
【設問 1 三】話し手の意図を捉えながら聞き自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題など
- 「書くこと」全国（公立）を上回った。
【設問 2 二】目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く問題など
- 「読むこと」全国（公立）を上回った。
【設問 3 二】目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながらか読む問題など
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
対象問題なし

今後の指導で大切にしたいこと

- 「話すこと・聞くこと」
 - ・相手と自分の意見とを比べて、自分の考えをまとめることができるよう、メモを効果的に活用し、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理する活動を行う。
 - ・相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例を取り上げるなどして、自分の考えを筋道立ててまとめることができるように指導を工夫する。
- 「書くこと」
 - ・推薦文であれば推薦理由を明確にして書くなど、相手に分かりやすく伝えたり、相手の理解を助けたりするための構成を考える学習活動を行う。
 - ・推薦する理由を明確に伝えるために、事例を挙げて具体的に説明することが有効であることを実感できる場の設定を行う。
- 「読むこと」
 - ・目的を達成するために、複数の本や文章を効果的に読んで問題を解決するなどの機会を多くする。
 - ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえるために、「何のために」「何を知りたいのか」「どのような情報が必要なのか」を明確にし、読む習慣をつける。

ウ 算数 A

学習指導要領の領域の状況

- 「数と計算」全国（公立）を上回った。
【設問 1（3）】1に当たる大きさを求める問題では、除数が少数である場合でも情報を用いることを理解しているか問う問題など
- 「量と測定」全国（公立）を上回った。
【設問 4（1）】異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しているか問う問題など
- 「図形」全国（公立）を上回った。
【設問 7（1）】円周率の意味について理解しているか問う問題など
- 「数量関係」全国（公立）を下回った。
【設問 8】百分率を求めることができるか問う問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「数と計算」
 - ・問題を読んですぐ立式するのではなく、問題場面の数量の関係を図や数直線などに表して、数量の関係を的確に捉えて立式する習慣をつける。
 - ・問題場面と数直線を式と関連付け、乗法や除法の意味について理解できるようにする。
- 「量と測定」
 - ・混み具合を比べる時には、一方の量をそろえると、もう一方の量の大小で比べられることが実感的に理解できるよう図示しながら考える学習活動を取り入れる。

- ・分度器を使って角の大きさを測定するときには、1 直角、2 直角、3 直角、4 直角を基にして、「測定する角の大きさは、何直角以上、何直角以下になりそうか」と見当を付けるなど工夫して測定し、技能が定着するまで繰り返し練習を行う。
- 「 図形 」
 - ・空間の中にあるものの位置を表す際には、ある点を基にして、縦、横、高さの三つの要素を用いて表すことができることを身の回りの物を使って実際に表し、実感できるようにする。
 - ・円の形をしたものの直径と円周を調べる活動を通して円周率を求めたり、円周の長さが直径を 2 倍、3 倍にしたときの円周率を作図で求めたりしながら、円周率の意味をしっかりと理解できるようにする。
- 「 数量関係 」
 - ・百分率を求めるために、問題場面から基準量と比較量を正しく捉えること、答えは基準量より大きくなるのか、小さくなるのか検討付けてから計算することを繰り返し練習していく。
 - ・折れ線グラフを読み取るときには、部分的に見るだけでなく、全体の変化の特徴に着目して考察する学習活動を行う。

工 算数 B

学習指導要領の領域の状況

- 「 数と計算 」全国（公立）を上回った。
【設問 4（2）】示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できるか問う問題など
- 「 量と測定 」全国（公立）を上回った。
【設問 5（1）】折り紙の枚数が 1 0 0 枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できるか問う問題など
- 「 図形 」全国（公立）を上回った。
【設問 1（2）】図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できるか問う問題など
- 「 数量関係 」全国（公立）を上回った。
【設問 4（1）】示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができるか問う問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「 数と計算 」
 - ・試行して集めた複数の情報を基に事柄を判断する際、表を使う便利さに気付けるようにする。
 - ・ペアで用いた数の意味や式の意味、答えの意味など、根拠を明確にししながら説明する場を常に授業の中で設定する。複数の情報を関連付けて論理的に説明する活動も行う。
- 「 量と測定 」
 - ・式と図を関連づけて説明する学習活動を行う。
- 「 図形 」
 - ・図形についての見方や感覚を豊かにするために、合同な多角形で敷き詰められた図形の中に、ほかの敷き詰めることができる図形を見出す活動を取り入れる。
 - ・三角形、正方形など既習の図形の角の大きさを基にして、他の角の大きさを求める問題を解き、角を求める多様な方法を身に付ける。
- 「 数量関係 」
 - ・グラフの特徴を複数の観点で捉えて情報を読み取ることができるようにするために、ペアやグループで、1 つのグラフについて読み取ったことを説明し合う学習活動を行う。
 - ・数量で表したグラフを割合のグラフに直すなど、問題解決ができなかったり、読み取った情報が適切か検討したりしたときに、目的に応じてグラフを作る活動を取り入れる。

オ 理科

学習指導要領の領域の状況

- 「物質」全国（公立）を上回った。
【設問4（2）】より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できるか問う問題など。
- 「エネルギー」全国（公立）を上回った。
【設問3（1）】乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できるか問う問題など
- 「生命」全国（公立）を上回った。
【設問1（3）】骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解しているか問う問題など
- 「地球」全国（公立）を上回った。
【設問2（1）】堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解しているか問う問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「物質」
 - ・学んだことを自然の事物・現象に適用できるように、学んだ事象と生活経験を関係付けて話し合う場を設定する。
 - ・実験などで得られた結果を児童が考察し、問題に正対したまとめをする時間を確保する。ノートに児童一人一人が自分の考えをまとめるようにする。
- 「エネルギー」
 - ・自らの予想や仮設を基に実験計画を立て、実験を行う前に、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通す時間を確保する。
 - ・学んだことをもとに「ものづくり」をする学習活動を大切にし、獲得した知識を「ものづくり」にどのように活用するかを明確にしたり、できた物が目的に合っているか振り返ったりする。
- 「生命」
 - ・問題に対応した視点で分析できるように問題を明確にするとともに、その視点に沿って結果から必要な情報を適切に選択する活動を取り入れる。
- 「地球」
 - ・児童が目的に応じて複数の情報を分担して収集し、それらの複数の情報からどのようなことが言えるのかについて話し合う学習活動を行う。情報の収集にはタブレット等を使い、リアルタイムに収集・蓄積すると効果的である。
 - ・天気の変化は、日常生活との関連を図りながら時間的・空間的な広がりをつかえられる場面を設定する。土地の様子の変化によって起こり得る自然災害についても触れるようにする。

中学校

ア 国語A

学習指導要領の領域の状況

- 「話すこと・聞くこと」全国（公立）を上回った。
【設問6二】話合いの話題や方向を捉える問題など
- 「書くこと」全国（公立）を下回った。
【設問4一】書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する問題など
- 「読むこと」全国（公立）を上回った。
【設問3二】場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題など
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」全国（公立）を上回った。
【設問8三】文脈に即して漢字を正しく書く問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「話すこと・聞くこと」
 - ・話し合い活動を積極的に実施し、主体的に話し合いに参加できるよう話し合いの目的を常に意識して話したり聞いたりするよう助言する。自分の考えと比較して聞いたり、メモに整理しながら聞いたりすることも大切である。
 - ・話し合いが課題の解決に向かうように進め方を提案したり、効率よく進むように協力したりするなど、話し合いへの参加の仕方について学習する場を設定する。
- 「書くこと」
 - ・文章を書く際には、集めた材料の関連を考えて分類したり、時間的な推移や因果関係などに基づいて整理したりした上で段落の役割を考え、目的や意図に応じた構成を工夫するよう指導する。
 - ・書いた文章を読み手の立場で読み返し、文や段落の接続の関係が適切であるか、どのような説明や具体例を加えたら良いかを検討する活動を取り入れる。
- 「読むこと」
 - ・図表などを伴う文章を読む際には、図表が文章のどの部分と関連しているかを確認し、図表の役割について考えたり、文章の内容を捉えるためにどのような図表が必要かを考えたりするよう指導する。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
 - ・語感を磨き語彙を豊かにするために、語句の意味を調べるだけでなく、その語句を使った短文作りを行ったり、話や文章の中で使ったりする。その際、他に適切な表現がないかを考えたり、複数の語句から最適な語句を選んだりする学習活動も取り入れる。

イ 国語B

学習指導要領の領域の状況

- 「話すこと・聞くこと」全国（公立）を下回った。
【設問2三】全体と部分との関係に注意して読み、内容を理解する問題など
- 「書くこと」全国（公立）を上回った。
【設問1三】目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題など
- 「読むこと」全国（公立）を上回った。
【設問3一】場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題など
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」全国（公立）を上回った。
【設問3三】相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「話すこと・聞くこと」
 - ・聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、それらを踏まえながら話すように指導する。話し合いの場を観察したり、録画して検討したりしながら振り返る場面を設ける。
- 「書くこと」
 - ・文章から読み取ったことをまとめるときには、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら内容を理解して書くよう指導する。
- 「読むこと」
 - ・説明文において目的に応じて文章の内容を的確に読み取るために、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導する。
 - ・文学的文章を読む際には、登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを考えながら読むように指導する。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
 - ・作品のあらすじをまとめる際には、小学校での学習を踏まえ、時間や場所、問題状況などの設定、情景や場面の様子の変化、主人公などの登場人物の性格や行動、会話及び心情の変化、事件の展開と解決などの基本的な構成要素を捉えて整理するように指導する。

ウ 数学A

学習指導要領の領域の状況

- 「数と式」全国（公立）を上回った。
【設問1（4）】ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解しているか問う問題など
- 「図形」全国（公立）を上回った。
【設問6（1）】三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解しているか問う問題など
- 「関数」全国（公立）を上回った。
【設問10】座標平面上に点の位置を示すことができるか問う問題など
- 「資料の活用」全国（公立）をやや上回った。
【設問14（1）】最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解しているか問う問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「数と式」
 - ・2つ以上の文字を含む等式を、ある文字について解く場面を設定し、等式の性質などを用いて目的に応じて変形できるように指導する。変形して得られた式を具体的な場面で利用することのよさを感じ得できるようにする。
 - ・不等号の意味を十分に理解できるようにするとともに、数量の大小関係を不等式に表すことができるよう繰り返し練習する。
- 「図形」
 - ・帰納的に調べていくことと演繹的に推論していくことの違いをしっかりと理解する場を設定し、証明の必要性と意味についての理解を深められるようにする。
 - ・操作的な活動を通して図形がもつ特徴を数学的に捉え、その操作を基本的な作図と結びつけて考えることができるようにする。
- 「関数」
 - ・具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、式に表し、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断する学習活動を設定する。式に表すことが難しい生徒に対しては、言葉の式や線分図で表したり、具体的な数値で表を作ったりする学習活動を取り入れる。
- 「資料の活用」
 - ・実験を通して、ある試行を多数回繰り返したときに、ある現象が起こる回数の全体に対する割合が近づいていく値として、確率の意味を、実感を伴って理解できるように指導する。

エ 数学B

学習指導要領の領域の状況

- 「数と式」全国（公立）を上回った。
【設問2（1）】問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるか問う問題など
- 「図形」全国（公立）を上回った。
【設問4（1）】証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができるか問う問題など
- 「関数」全国（公立）をやや上回った。
【設問3（2）】グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に説明することができるか問う問題など
- 「資料の活用」全国（公立）を下回った。
【設問5（1）】与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるか問う問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「 数と式 」
 - ・問題場面について考察の対象を明確に捉えるために、具体的な数を用いることができるように指導する。
- 「 図形 」
 - ・証明を読み、結論を導くために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定し、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるように指導する。
- 「 関数 」
 - ・問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるように指導する。その際、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面を設定する。
- 「 資料の活用 」
 - ・場面に応じて割合を百分率や歩合を用いて表現できるように指導する。数直線や比などに表すことで、基準量・比較量・割合を捉え、それらの関係を的確に式に表す活動を取り入れると効果的である。

オ 理科

学習指導要領の領域の状況

- 「 物理的領域 」全国（公立）を上回った。
【設問 6（3）】豆電球と豆電球型の LED の点灯の様子と電力との関係を指摘できるか問う問題など。
- 「 化学的領域 」全国（公立）を上回った。
【設問 2（2）】濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できるか問う問題など
- 「 生物的領域 」全国（公立）を下回った。
【設問 9（1）】植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けているか問う問題など
- 「 地学的領域 」全国（公立）を上回った。
【設問 7（3）】初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できるか問う問題など

今後の指導で大切にしたいこと

- 「 物理的領域 」
 - ・電流に関する事物・現象を科学的に探究するために、電流と電圧に関する規則性を見出すことが大切である。2種類の抵抗器に加える電圧と流れる電流の大きさを測定する実験を行い、その結果をグラフに表し、電流と電圧との関係について考える学習活動を行う。
 - ・光の反射の幾何学的な規則性についての知識・技能を活用できるようにする。
- 「 化学的領域 」
 - ・実験を計画する際、はじめに「変化すること（従属変数）」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討し、その後「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」に整理して、実験を計画するよう指導する。
 - ・特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水の質量を求めた時に、実際に水溶液をつくる学習場面を設定する。しょうゆや即席みそ汁などの日常生活で用いる食品を取り上げ、それに含まれる食塩の質量パーセント濃度を求めるのも効果的である。
- 「 生物的領域 」
 - ・感覚器官や神経系の基礎的・基本的な知識を習得する際に、例えば動物が外界の刺激に適切に反応して生活している様子を観察したり、落とされたものさしをつかむ実験を行ったりするなど、観察・実験や日常の経験などを通して理解する学習場面を設定する。

「 地学的領域」

- ・広域の気象情報と観測者が捉える気象現象とを関連付け、空間と方位、時間の観点から気象現象を考えたり説明したりする学習場面を設定する。
- ・過去の地震の記録を基に観測地点における揺れの様子を探究し、震度とマグニチュード、初期微動と主要動など地震に関する知識を身につける学習場面を設定する。その際、地震に関する知識が活用されている例について考えることで、理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようにする。

(3) 無回答率

状況

小学校では無回答率が全国（公立）を上回る問題数は少なかったが、中学校では無回答率が全国（公立）を上回る問題数が多かった。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童が主体的に、しっかり思考できる授業づくりを目指して、学習のめあての明確化や見直しをもつ場の設定、交流活動の工夫など、改善を図っていく。
- ・授業の中で、自分の考えをもち表現する場面、解けない問題についてもいろいろな方法を試しながら粘り強く挑戦する場面を設ける。
- ・無回答が多かったのは、「理由を述べる」「説明する」といった設問であった。そのために、分かっていることと問われていることを整理しながら読む力や、自分の考えを論理的に説明する力を育てる学習活動を行っていく。

(4) 質問紙調査

児童生徒質問紙調査

ア 自尊意識について

状況

自尊意識にかかわる質問項目について、【設問 1】については小学生・中学生ともに全国（公立）を下回った。【設問 3】については小学生は上回り、中学生は下回った。

- ・【設問 1】自分には、よいところがあると思いますか
- ・【設問 3】将来の夢や目標をもっていますか

今後の指導で大切にしたいこと

- ・日ごろから自主的な活動を賞賛し、ボランティア清掃など進んで活動できている児童生徒を認める場を設定する。成就感を味わえる活動を取り入れていく。
- ・肯定的な言葉かけや集団づくりに努めるとともに、縦割り班活動等を通じて自己有用感を育てる。
- ・自分の夢や目標をもって、それに向かって行動できるような声かけをしていく。
- ・自己肯定感を育てるために、授業をはじめ様々な行事を通して、互いに認め合える学級や集団づくりをしていく。また、周りの児童生徒が見付けていないその子のよいところを教師がモデルとなってほめることで、生徒の中に認め合う姿勢を広げていく。
- ・小学校でのキャリア教育を推進するとともに、中学校での職業調べや職場体験などの総合的な学習の時間を充実させ、将来について考える機会を増やす。

イ 規範意識について

状況

規範意識にかかわる質問について、当てはまると回答した割合は、小学生では全国（公立）をやや下回り、中学生は下回った。

- ・【設問 4】学校のきまり（規則）を守っていますか

今後の指導で大切にしたいこと

- ・毎月の生活目標について学年で話し合いの場を設けたり、振り返りの場を設けたりして、自己指導能力を育てていく。
- ・きまり（規則）を守る意義について話し合う場を設けるとともに、自分の行動を見つめ、振り返る機会を適宜もつようにする。

ウ コミュニケーション能力について

状況

自分の考えや意見を発表したり、伝えたりすることについての肯定的な回答は、小学生・中学生ともに全国（公立）を下回った。

- ・【設問 45】理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか
- ・小【設問 56】、中【設問 53】自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか

今後の指導で大切にしたいこと

- ・授業で自分の考えをもつ時間やペア学習やグループ学習などで友達と交流する時間を設定し、多様な考え方を知ったり、比較させたりする。
- ・自分の考えを言葉で伝える習慣を付け、図や資料と関係付けながら相手に分かりやすく伝える方法について考える場を設ける。

エ 学習に関する関心・意欲について

状況

小・中学校において、「の勉強は好きですか」という質問の肯定的回答は全国（公立）をほぼ下回り、「の授業の内容はよく分かりますか」という質問については、ほぼ上回った。（算数・数学）

- ・【設問 27】算数・数学の勉強は好きですか
- ・【設問 29】算数・数学の授業の内容はよく分かりますか
- ・【設問 38】理科の勉強は好きですか
- ・【設問 40】理科の授業の内容はよく分かりますか

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒への賞賛や伸びを認める言葉かけをしっかりとっていく。
- ・教材研究に努め、「分かる・楽しい授業」をめざすとともに、児童生徒主体の授業を考えていく。
- ・単元計画や既習事項を掲示し、見通しをもって学習が進められるようにしていく。
- ・授業においては課題解決の時間を確保し、「できる」ことによって達成感や満足感を味わえるようにする。
- ・授業の終末に振り返りの時間を確保し、何ができるようになったかを確認するとともに、次時へのめあてがもてるようにする。
- ・いつでもだれにでも質問ができる学級の雰囲気をつくる。

オ 家庭における学習習慣等について

状況

小学生・中学生ともに、全国（公立）に比べて、適切なテレビやビデオ・DVD・ゲーム・インターネットの時間は下回った。家庭学習の時間・自主的な勉強の時間は、小学校では全国（公立）を上回り、中学校では下回った。

- ・【設問 10】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・【設問 14】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）
- ・【設問 16】放課後に何をして過ごすことが多いですか

今後の指導で大切にしたいこと

- ・就寝時刻から逆算して、学習時間の計画を立てた上で実践するなど、家庭での過ごし方について、学校と家庭が連携・協力を密にして生活改善に努める。
- ・各家庭で、テレビ、ゲーム、インターネット等の使い方のルールづくりを行うよう啓発する。

学校質問紙調査

ア 補足的なサポート、校内研修について

状況

放課後を利用した学習サポートを実施した割合、授業改善、授業力向上のための校内研修を行った割合が小学校・中学校ともに全国（公立）を上回り、熱心の実施されている。

- ・小【設問 37】、中【設問 36】前年度までに補足的の指導（算数・数学）を行いましたか
- ・小【設問 72】、中【設問 69】校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実実施計画を整備するなど、組織的な研修を行っていますか。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・昼休みや放課後の時間を利用し、課題にねばり強く取り組ませるとともに、児童生徒の達成感を味わわせる機会を増やすための学習サポートを今後も計画的に実施していく。
- ・新学習指導要領の改訂に向け、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を目的とした研修を行っていく。

イ ICT教育について

状況

ICTを活用しての学習活動の設定時間が、小学校は全国（公立）よりも下回り、中学校は上回った。

- ・小【設問 29】、中【設問 28】前年度に、児童・生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか

今後の指導で大切にしたいこと

- ・ICTの整備・補充を図り、児童の発達段階に応じて、効果的にICTを用いての学習活動を取り入れていく。

ウ 小中合同の研修について

状況

小中合同の授業研究等の研修についての肯定的回答は、全国（公立）と比べて下回った。

- ・小【設問 21】、中【設問 20】前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか

今後の指導で大切にしたいこと

- ・小中合同の研修の場を有効に活用し教科に関する目標の共有を行うとともに、外国語活動における小中連携等を有効に活用してなめらかな接続を図っていく。

平成30年度全国学力・学習状況調査問題については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。